

平成22年度 栄川中学校区『幼・小・中一貫教育研究』推進計画

栄川中学校区園・校長会

1 研究テーマ

「自立的に生きる基礎を培うために」
～交流する中で、自分を高める～

なめらかな接続と適度な段差

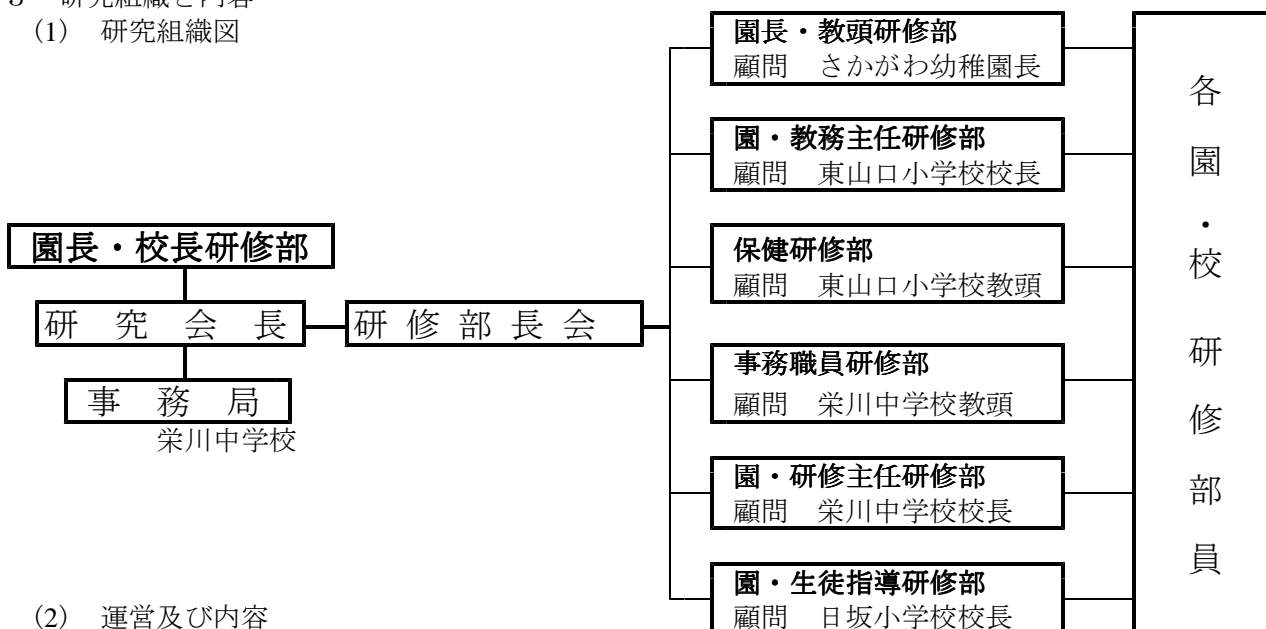
2 目的

- (1) 栄川中学校区の幼稚園、小学校、中学校が連携と調整を図り、系統だった園・学校経営を構想することで指導効果をあげる。
- (2) 異校種間の研修を通して、園児・児童・生徒の実態を知り、一貫性のある指導をする中で、職員の資質向上を図る。
- (3) 幼・小・中の子どもを主体とした交流活動を積極的に行う。
- (4) 幼・小・中教員の交流・活動を通して、小・中のスムーズな生徒指導の流れをつくり、基礎基本の定着と小一プロブレム・中一ギャップの解消を図る

小一プロブレム⇒小一ホップ 中一ギャップ⇒中一ステップ 中三卒業⇒ジャンプ

3 研究組織と内容

(1) 研究組織図



(2) 運営及び内容

N0.	研 修 部 名	運 営	内 容
①	園長・教頭研修部	<ul style="list-style-type: none"> ・会の招集、通知作成は部長 ・会場は推進校 ・レジュメ、司会は推進役 ・年2回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・一貫研修の推進 ・共通指導事項の進捗状況の確認と指導 ・情報交換 ・交流教員・交流活動の指導・助言
②	園・教務主任研修部	<ul style="list-style-type: none"> ・会の招集、通知作成は部長 ・会場校は顧問の学校とする ・レジュメ、司会、記録は輪番 ・年6回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育交流活動、全体会の計画、進行、日程調節 ・日程、役割分担、記録等 ・共通指導事項の具体的計画
③	保健研修部	<ul style="list-style-type: none"> ・会の招集、通知作成は部長 ・会場は推進校 ・レジュメ、司会は推進校 ・年3回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健活動の情報交換と研修 ・幼・小・中連携の保健実践活動 ・ノーメディア運動2回 ・特別支援教育の推進 ・12年間を見通した保健活動

NO.	研 修 部 名	運 営	内 容
④	事務職員研修部	・会の招集、通知作成は部長 ・会場は推進校 ・レジュメ、司会は推進校 ・年3回実施	・一貫研における予算案作成・執行 ・会計報告・一貫研に関わる事務研修
⑤	園・研修主任研修部	・会の招集、通知作成は部長 ・会場は推進校 ・レジュメ、司会は推進校 ・年9回実施	・12年間を見通した学習指導計画の研究及び作成 ・研修内容の共通化 ・教科研究における教員の資質向上 ・合同研修会の推進
⑥	園・生徒指導研修部	・会の招集、通知作成は部長 ・会場は推進校 ・レジュメ、司会は推進校 ・年4回実施	・幼・小・中12年間を見通した生徒指導の研究 ・生活におけるスキルの定着 ・地域、家庭への啓蒙 ・子育て十か条・家庭学習の手引き
⑦	園長・校長研修部	・会の招集、通知作成は部長 ・会場は推進校 ・レジュメ、司会は推進校 ・年8回実施	・一貫教育研究の推進 ・各園校の連絡調整 ・経営理解・情報交換 ・校区健全育成会 ・交流活動における方針・指導

*通知については、すべて各校の教務主任が確認の上、必ず事務局へメールで送付してください。
各、園校には、事務局より一括して発送します。【栄川中】

(3) 推進校

① 園長・教頭研修部	東山口小学校	部長	東山口小	兵藤
② 園・教務主任研修部	東山口小学校	部長	東山口小	後藤
③ 保健研修部	東山口小学校	部長	栄川中	松下
④ 事務職員研修部	栄川中学校	部長	栄川中	鈴木
⑤ 園・研修主任研修部	栄川中学校	部長	日坂小	安松
⑥ 園・生徒指導研修部	日坂小学校	部長	日坂小	斉藤
⑦ 園長・校長研修部	持ち回り	部長	栄川中	土屋
※ 会長及び事務局	栄川中学校		栄川中	柳瀬

4 研究内容

掛川市教育委員会の指定「掛川市保幼小中連携・一貫教育（中学校区学園化構想）研究」
－平成21・22年度－

- 一貫研究テーマ「自立的に生きる基礎を培うために」に向かい、より良い栄川中学校区の子どもの育成を図る。
- 研修主任研修部については地区内の幼・小・中が同じ研修テーマ『じっくり考え 表現できる子』のもと、「人とかかわり、自分を深める」（サブテーマ）に迫る研修を推進する。
- 生徒指導研修部については、研修主任研修部の支援をすると共に、地区内の幼・小・中の子どもたちに共通の学びの意識を持たせるための研修を推進する。

5 一貫研究の進め方

- 幼・小・中の研修体制の1本化
 - 3校1園の全職員を3つ（たまご・ひよこ・にわとり）に分け、年間3回の授業研究を行う。
 - 年間2回の全体研修会を位置付け、研修の方向性の確認や、講師を招いて研修を進める。
- 共通して指導する学習スキルを取り入れた教育活動を進める。

- (3) 道徳指導重点項目を「勤勉・努力」「おもしろやり」とする(研修部・道徳主任で検討会を持つ)
外国語活動(中学英語)との関連性・共通指導内容等の研修を深める(研修部・外国語担当)
- (4) 学びの充実を目指して家庭・地域にも働きかける(啓発・協力)
「家庭学習の手引き・子育て十か条等」
- (5) 交流(職員及び子ども)の機会を探りながら、有意義な活動を位置付けていく。

6 研修計画

(1) 全体研修会

回	実施期日	内 容	会 場
1	4月14日(水)	一貫研総会(年度計画確認等)	東山口小学校
2	6月9日(水)	合同教科研修会①	各 校
3	7月14日(水)	合同教科研修会②	各 校
4	7月29日(木)	夏季一貫研修会(発表会授業内容検討)	栄川中学校
5	11月19日(金)	市指定研究発表会	各 校

(2) 校・園長会

回	実施期日	内 容	会 場
1	4月7日(水)	研修テーマ、組織、事業計画、運営方針等	栄川中学校
2	5月7日(金)	全体研修会、一貫研の持ち方等	東山口小学校
3	6月4日(金)	発表要項検討	日坂小学校
4	7月6日(火)	発表会内容確認、健全育成講演会、 夏季休業中の指導等	さかがわ幼稚園
5	9月2日(木)	夏季休業中の反省、交流計画、地区祭典等	東山口小学校
6	10月5日(火)	全体研修会具体事項	栄川中学校
7	11月9日(火)	発表会に向けて具体事項確認	日坂小学校
8	2月2日(火)	本年度の反省等 次年度の事業内容、運営、行事予定等、	さかがわ幼稚園

(3) 園長・教頭会

回	実施期日	内 容	会 場
1	6月7日(月)	共通指導事項検討、情報交換等	栄川中学校
2	12月7日(火)	共通指導事項検討、情報交換等	栄川中学校

(4) 研修部長会…随時開催

(5) 教務・園主任者会

回	実施期日	内 容	会 場
1	4 月 8 日 (木)	2 2 年度活動計画、総会の内容確認・分担	東山口小学校
2	5 月 11 日 (火)	総会反省、あいさつ運動、交流確認等	東山口小学校
3	9 月 9 日 (木)	(予備日)	東山口小学校
4	10 月 21 日 (木)	各部活動確認、学校評価、次年度計画、懇親会等	東山口小学校
5	12 月 16 日 (木)	2 3 年度教育計画確認	東山口小学校
6	2 月 3 日 (木)	年間計画調整・確認、総会内容、研修日程	東山口小学校

(6) 保健研修部会

回	実施期日	内 容	会 場
1	5 月 20 日 (木)	保健活動計画作成、情報交換等	東山口小学校
2	9 月 24 日 (金)	保健活動推進状況確認、情報交換等	東山口小学校
3	2 月 14 日 (火)	実践のまとめ、進級児童の引き継ぎ	東山口小学校

(7) 研修部会

回	実施期日	内 容	会 場
1	4 月 6 日 (火)	研修活動計画作成、グループ分け等	栄川中学校
2	5 月 17 日 (月)	授業研計画、夏季研の内容検討等	栄川中学校
3	6 月 7 日 (月)	第 1 回授業研準備等	栄川中学校
4	7 月 6 日 (火)	第 1 回授業研考察と第 2 回準備等	栄川中学校
5	7 月 20 日 (火)	第 2 回授業研考察と夏季研修準備等	栄川中学校
6	9 月 7 日 (火)	今後の進め方と発表会当日指導案の検討	栄川中学校
7	9 月 21 日 (火)	発表会に向けての準備	栄川中学校
8	10 月 12 日 (火)	発表会に向けての準備	栄川中学校
9	11 月 2 日 (火)	発表会に向けての準備	栄川中学校
10	12 月 7 日 (火)	本年度の成果と課題検討	栄川中学校
11	12 月 21 日 (火)	本年度のまとめ、次年度の検討	栄川中学校
12	2 月 8 日 (火)	次年度構想、計画作成	栄川中学校

(8) 生徒指導部会

回	実施期日	内 容	会 場
1	4 月 27 日 (火)	活動計画、情報交換	日坂小学校
2	7 月 6 日 (火)	計画推進状況確認、情報交換	日坂小学校
3	11 月 2 日 (火)	発表会に向けた準備	日坂小学校
4	1 月 20 日 (木)	次年度構想、計画作成	日坂小学校

7 共通日課 (さかがわ幼稚園；登園 8：15～8：45・降園：14：00)

	栄川中学校	東山口小学校	日坂小学校
朝活動	8：00～ 8：25	8：00～ 8：20	8：00～ 8：25
第1時	8：30～ 9：20	8：20～ 9：05	8：25～ 9：10
第2時	9：30～10：20	9：15～10：00	9：20～10：05
業 間		10：00～10：20	10：05～10：25
第3時	10：30～11：20	10：25～11：10	10：30～11：15
第4時	11：30～12：20	11：20～12：05	11：25～12：10
昼 食	12：35～12：50	12：05～12：50	12：10～12：50
昼休み	12：50～13：15	12：50～13：15	12：50～13：20
清 掃	13：20～13：30	13：20～13：35	13：25～13：40
第5時	13：40～14：30	13：40～14：25	13：45～14：30
第6時	14：40～15：30	14：25～15：10	14：25～15：10

8 具体的な交流

(1) 職員交流

- ① ハローティーチャー・・・赴任2年目に他校・園で実施する。
- ② 授業研究会・・・・・・・・年3回1園3校合同、3グループ体勢で実施する。
- ③ 職員懇親会・・・・・・・・企画、運営は事務局が担当する。

(2) 園児・児童・生徒の交流

- ① 幼小交流
- ② 小小交流 (同学年交流、合同社会科見学等)
- ③ 小中交流 (音楽交流、陸上交流等)

※ 実績を記録し引き継ぐ。

9 ハローティーチャー（職員の教育交流活動）

(1) 目 的

他校・園の子どもの実態を知り、一貫性を持った指導の在り方を研究する基盤づくりとする。

(2) 内 容

- ① 幼→小、小→幼・中、中→幼・小の交流を行う。
- ② 年間指導計画に位置付いた授業、又はそれに代わる取り組みを行う。
- ③ 実践の報告を行う
 - ・実践レポートは規定の様式に従い、図や写真を加えて簡潔にまとめる。
 - ・事前打合せ等も日時を記録する。
 - ・記録用写真は原則として会場の園、校の主任、教務主任が担当する。
 - ・受入学級担任からのコメントも入れる。
- ④ 打合せ等の連絡時間は、幼稚園へは 15:00 ～ 16:00 の間、小中学校へは 16:00 ～ 16:45 とする。なお連絡は授業者が受入校に行く。

(3) その他

- ① 必要経費（教材費等）も一貫研の各園・校の予算を充てる。
- ② 相手校との連絡（出張）日時、授業日時等は主任・教務主任と連絡を取る。
- ③ 学校の代表として、相手校（校長）へのあいさつを確実に行う。
- ④ 服装は授業や連絡にふさわしい服装とする。
- ⑤ 園・校名入りの名札を着用する。
- ⑥ 派遣願いは受入校・園が発送する。

1 研修テーマ

じっくり考え 表現できる子 ～人とかかわり、自分を深める～ (1園3校共通)

2 テーマ設定の理由

栄川中学校区幼小中全ての子どもの実態をもとに設定した1園3校共通研修テーマ「じっくり考え表現できる子」に向けた取組も、3年が経過した。研修テーマを共有化した背景には、栄川中学校区幼小中全ての子どもの実態がある。子どもたちが授業や活動に立ち向かう姿を振り返ったとき、「願う姿(つきたい力)」として、以下の課題が共通点としてあげられた。

- ・自分の考えをもち、自分の思いを表現する力
- ・既習の内容を生かそうとする力
- ・最後までやりぬく力

そこで、研修を各園・校独自の取組から一貫教育の場に移し、幼小中12年間を見通した系統的・計画的な指導を目指す本研修は、異校種混成のグループで年間を通して授業研究をおこなうことも定例化し、それぞれの発達段階にある子どもの実態を把握し、校種間で異なる授業観・指導観も理解しつつある。異校種の授業研究でも積極的に意見を述べ合う姿は、もはや珍しいことではなくなった。

それにより、「じっくり考える子」「表現できる子」について、いずれも75%超の教員が伸びを認めるまでとなった。中学校における、生徒への授業アンケート(12月実施)でも、授業を「分かる」「楽しい」と感じている生徒が89%(全学年全教科平均)に達した。子ども同士の温かなやりとりのある落ち着いた授業風景が日常的に見られることも、大きな成果である。これらは、課題設定や板書の工夫、交流する場の設定、振り返り(書く活動)の重視といった地道な授業改善が生きたといえる。

そこで、本年度の研修テーマを引き続き「じっくり考え 表現できる子 ～人とかかわり、自分を深める～」と設定した。「じっくり考え 表現できる子」は本研修の土台となるものであり、これまでの研修で培った「自分づくり」を今後も大切にしたいと考えるからである。サブテーマ「人と関わり、自分を深める」には、「人とかかわりながら自分を伸ばしていける子になってほしい」という願いを込めている。自分の考えをふくらめるためには、かかわりが欠かせない。友達や教師と問いを共有したり、思いや考えをやりとりしたりすることを通して、もう一度自分を見つめ直してほしいのである。よって、「自分を深める」とは、「自分の考えを再考して高めること」とおさえる。つまり、「じっくり考え 表現できる子」とは、人とのやりとりの中で行きつ戻りつする自分の考えを見つめ直し、とらえ直して、表現に至るといいう学びをしている子である。

私たちは、本研修をさらに充実させるために、生徒指導面にも改めて着目することにした。授業だけでなく、子どもの実態や日々の具体的な営みを語り合うのである。それにより、教員同士の学び合いがいつそう進み、明日への活力をつかむことを願っている。

本研修は、幼小中が全てかかわる研修である。子どもの表れを細やかに見取り、また、子どもの良さを引き出す教育活動を推進していく場である。本研修に携わる全ての教職員が、幼小中一連の流れの中で子供観を養うこと、12年間の子どもの育ちを保证することを最大のねらいとする。教員一人ひとりが様々な実践を積み重ねていくこと、それを共有化していくこと、そしてさらなる実践につなげること、つまり、子どもに期待する学びを私たち自身が具現化していくことが、ねらいを達成させるために不可欠である。

3 研修部における仮説

幼小中で連携して研究に取り組むことを通して、子ども理解が深まり、表れを細かく見取ることができるようになるだろう。また、授業改善により子ども同士のかかわりの場面を大切に、振り返りの場面で自分の考えを表現させる活動を行う。その結果、目指す子どもの姿として、

- 1 子どもは、友達の良さを認めるようになるだろう。
- 2 子どもは、表現する喜びを感じるようになるだろう。
- 3 子どもは、自分の考えに自信をもつようになるだろう。

4 研修の手だて

(1) 幼・小・中が連携できる体制の構築

① 合同研修推進委員会の実施

各校・園が、共通して研修を進めるために、それぞれの研修主任および校区の顧問が参加し、研修推進委員会を実施する。研修を円滑に進めることができるよう、今年度は以下の通り8回の合同研究推進委員会の実施を計画している。

ア 合同研修推進委員

・顧問	土屋 幸代	栄川中学校長	・委員	伊藤 亮	東山口小学校
・委員	安松 恭子	日坂小学校	・委員	福田真由美	栄川中学校
・〃	内藤 彩子	さかがわ幼稚園	・〃		

イ 委員会開催日程と内容

回	日 時	内 容
1	4 / 6 (火) 15:30 ~	・研修の進め方の確認(共通指導事項含む) ・グループ分け ・一貫研総会について
2	5 / 17 (月) 16:00 ~	・授業研の計画について ・夏季研修の内容検討
3	6 / 7 (月) 16:00 ~	・第1回授業研の準備
4	7 / 6 (火) 16:00 ~	・第1回授業研の考察と第2回授業研の準備 ・夏季研修の計画
5	7 / 20 (火) 16:00 ~	・第2回授業研の考察と今後の方向性の検討 ・夏季研修の準備
6	9 / 7 (火) 16:00 ~	・今後の進め方 ・第3回授業研(発表会当日)の指導案の検討
7	9 / 21 (火) 16:00 ~	・発表会に向けての準備
8	10 / 12 (火) 16:00 ~	・発表会に向けての準備
9	11 / 2 (火) 16:00 ~	・発表会に向けての準備
10	12 / 7 (火) 16:00 ~	・本年度の成果と課題の検討 ・アンケート項目の検討・準備
11	12 / 21 (火) 16:00 ~	・本年度のまとめ ・アンケート結果の考察 ・来年度の方向性の検討
12	2 / 8 (火) 16:00 ~	・来年度の具体的な研修の進め方の検討と確認 ・計画作成

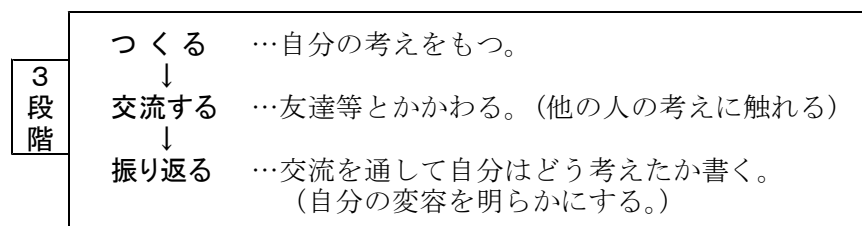
②異校種混成の研修グループの設置

幼小中一連の流れの中で子供観を養うために、異校種混成の研究グループを設置する。小1プロブレムや中1ギャップなどを解消することも配慮し、子どもの発達段階を重視したグループ分けをおこなう。学校をまたいだ体制で、情報交換を促すことも目的の一つとしている。グループのメンバーは以下の通りである。

	たまごグループ 幼・小1～2・中3	ひよこグループ 幼・小3～4・中2	にわとりグループ 幼・小5～6・中1
さがわ 幼稚園	山本（長）西村（中） 内藤（少）石塚（少）	枝村園長 堀内（4才）	山梨（主）大竹（3才） 高柳（3・4才）
日坂小	寺田教頭 齊藤① 田代②	甲田③④ 熊切養教	戸塚校長 安松⑤ 森下⑥
東山口小	坂部① 藤原② 竹内 志村養教	佐藤校長 伊藤③ 近藤④ 後藤	兵藤教頭 青谷⑤ 澤野⑥ 萩田,特
栄川中	土屋校長 石川 平岡 福田	大川教頭 藤原 高塚 柳瀬	後藤 萩原 松下養教
合 計	1 5	1 2	1 3

(2)幼・小・中で共通して取り組む内容

①授業づくりの考え方の共有



目の前の子どもの
姿を見取り、生かそ
うとする授業づくり

- ア 上記の3段階を設定し、今年度も「交流する→振り返る」の部分に焦点をあてて研修を進める。
特に、小集団の活動を全体の場にどのように生かすかについて、研修を深めたい。
イ 子どもの実態から出発し、単元構想を立てる。（問題解決的な学習を取り入れる。）
ウ 子どもにとって「わかる授業」「楽しい授業」であるかを常に意識する。

②授業参観の考え方の共有

- ア 授業者から示された「本時までの表れ」と「着目する子供の学びの構想」を理解して、授業を参観する。
イ 子供が授業を通して、何がきっかけでどのように変容していったか、実際の表れを見取る。

【視点】

- ・「つくる」→「交流する」→「振り返る」の手だてはどうだったか。
- ・子どもは生かされていたか。
- ・学びの構想は的確だったか。
- ・参観して自分が学んだことは何か。

5 研修内容

(1)公開授業と授業研究会の実施

年間3回の公開授業を実施する（第1回6／9、第2回7／14）。事前研修会は、授業を実施する各校にて行い、授業後の研修会は、4-(1)②にある異校種混成の研究グループごとにおこなう。研究グループごとの事後研修会では、授業分析だけでなく、生徒指導に関連し、授業づくりを支える部分として、実態や取り組んでいることについて話し合う時間も設定する。

(2)授業研究会の流れ

①指導案づくり

- ・指導案は細案（別紙提案）とし、授業前日までに各校に送る。当日、変更案があってもよい。
- ・事前研は担当校内で行い、担当校の研修主任がかかわる（他グループであっても）。

【事前研で明らかにしておきたいこと】

- ・この単元にかける授業者の思い
 - ・本単元に関わる子供の学びの履歴と、子供にとっての単元の価値
 - ・研修テーマの「具体的な姿」に向けて、どんな活動をどのように進めてきているか
 - ・着目する子どもの設定理由、期待する具体的な表れ、そのための具体的な手だて
- ※「着目する子ども」は、『単元を通して変容を期待する子』を基準に設定する。

②公開授業

- ア 着目する子どもの表れ（発言・つぶやき・しぐさ・表情・動きなど）を各自記録しながら参観する。全体記録はないので、必ず各自記録する。
- イ 着目する子どもを中心に、その子がかかわった子どもの様子も記録しておく。
- ウ 何らかの理由で着目する子どもの記録がとれない場合は、それに代わる子どもの表れを記録する。
- エ デジタルカメラで記録写真を残す。

③事後研修（※事前研修に参加した、研修主任以外の自校研修推進委員が司会を務める。）

<前半>

- ア グループ担当教頭あいさつ
- イ ①本時のねらい②交流の意図について、事前研で話し合われた内容を説明する。
- （ウ 幼稚園研修報告）
- エ 研究グループ内で、異校種混成4～5人の小集団を作る。その際、司会と授業者は適宜、小集団に入る。
- ウ 小集団で授業分析をおこなう。

【進め方】

- ①「着目児を中心に、子どものあらわれ」を付箋に書く。（青：良い点、赤：改善点）
→構想図にある「具体的な姿」を意識しながら
- ②付箋に書いた内容を紹介し合いながら画用紙に貼り、小見出しをつける。
- ③本時のねらいと子どものあらわれ、交流場面を深めた練り合いの姿など、子どものあらわれを中心に話し合う。授業者に質問がある場合は、その都度声をかける。
- ※司会が適宜つないだり戻したりする。

- エ 各小集団、話し合った内容を報告する。
- オ 授業者が振り返りを話す。

<後半>

- ア その回の生徒指導項目について話し合う。

【生徒指導項目】

第1回：人間関係づくり 第2回：家庭学習の習慣化 第3回：人間関係づくり

※生徒指導に関連し、授業づくりを支える部分として、実態や取り組んでいることについて話し合う。

- イ グループ担当校長指導講評
- ウ 各自、黄色の付箋に振り返りを書いて提出する。
（研修主任が発行する通信の裏面に印刷）

流れ	指導案送付	本時	事後研	通信作成	通信送付
責任者	担当校の 研修主任	同じ部会の 担当校職員	部会担当の 研修主任	部会担当の 研修主任	部会担当の 研修主任
備考	・各校へ送付 ・印刷して、 全員に配布	・写真撮影	・画用紙と ペン準備		・各校へ送付 ・印刷して、 全員に配布

(日坂小
研修主任へ)

- ・通信
- ・指導案
- ・写真
- ・事後研記録

(部会担当研修主任へ)

- ・授業者の振り返りデータ
- ・写真データ

(3)学習ルール(学習規範)について

① 1 園 3 校で共通して指導する学習ルールを設け、継続して指導していく。

ア「話す・聞く」ルール

- ・友達の方を向いて話す、聞く。
- ・聞く時は聞く、書く時は書く。「ながら」をしない。

【例】学習マナー「栄中3原則」

- ① 2 分前には席に着き、机の上に学習用具を用意しておきます。
- ② 学習に集中し、積極的に反応・発言・活動します。
- ③ 先生の話や友達の意見は、顔を上げ、黙って最後まで聞きます。

イ「ノート」のルール

- ・日付を書く。
- ・詰めて書かない。(前日からは一行空けるなどし、ゆったり書く。)
- ・学習課題(学習問題)は必ず書き、赤で囲む。
- ・全ての教科で考えの足跡を残していく。(ノート・学習カードで)
- ・「振り返り」という言い方で、自分の考えの軌跡を書く。(本時で、単元を通して)
- ・小学校は 4 教科のノートと漢字ノートを指定する。

学年	国語	社会	算数(数学)	理科	漢字
小 1	15mm 方眼	*	15mm 方眼	*	50 字
小 2	15mm	*	15mm	*	84 字
小 3	10mm	10mm 方眼	10mm	10mm 方眼	84 字
小 4	10mm	10mm	10mm	10mm	84 字
小 5	10mm	10mm	10mm	10mm	100 字
小 6	8mm	8mm	8mm	8mm	100 字
中 1	大学ノート	大学ノート	5mm	大学ノート	100 字

ウ「家庭学習」のルール

- ・生徒指導部提案の「家庭学習のてびき」に従う。

一貫研合同研修構想図

研修テーマ

じっくり考え 表現できる子

～人とかかわり、自分を深める～

目指す子どもの姿

- ・子どもは、友達のよさを認める。
- ・子どもは、表現する喜びを感じる。
- ・子どもは、自分の考えに自信をもつ。

手だて

子供の実態をとらえ、学びを構想し、変容を見取る（子供理解）

- *授業スタイルの統一（つくる、交流する、振り返る、の3段階）
- *単元構想の充実（問題解決的な学習）*保育環境・遊びの充実
- *小集団活動を活性化させる学習課題の設定
- *12年間を見通した聴き方・話し方の育成

「じっくり考え 表現できる子」の具体的な姿

幼稚園	小1・2	小3・4	小5・6・中1	中2・3
◆ 3歳児 ・遊びを楽しむ中で、自分なりの言葉で思いを伝えようとする。	・自分の言葉で語尾までしっかり言う。	・自分なりの理由付けをした考えをもつ。	・根拠のある考えをもつ。	・より確かな根拠や裏付けのある考えをもつ。
◆ 4歳児 ・友達の話を聞いた後自分の思いを伝えたりしながら遊ぶ。	・人の話を黙って最後まで聞く。	・自分の考えと友だちの考えの違いに気づく。	・複数の考え方ができ、よりよい方法を求めようとする。	・適切な方法や言葉を選び、自分の考えや意図を伝える。
◆ 5歳児 ・友達と考えを伝え合いながら、遊びを進める。	・考えをもったり表現したりすることに、満足感をもつ。	・友だちの名前や考えの出でくる振り返りをする。	・友だちの考えと比較したり、取り入れたりして、自分の考えを表現する。	・交流したことを生かし、理由や根拠をはっきりさせて、論理的に表現する。

平成22年度 生徒指導研修部 活動計画

(1) 幼・小・中の共通指導事項

1 あいさつは「だいじ」

ア あいさつができる

- ・あいさつは、人間関係づくりの基本であり、重点的に指導する。
 - ・友達・先輩・後輩、教職員、保護者、地域の方と自然にあいさつができるようにさせる。
 - ・幼稚園・小学校段階から園・学校全体で取り組み、教職員から率先してあいさつする。
 - ・『だいじ』を合い言葉に児童会・生徒会の活動として取り組ませる。
- ※だ…誰にでも い…いつでも じ…自分から

イ 正しい言葉遣いができる

- ・職員室への出入りの機会を中心に、指導の徹底を図る。
- ・「〇年〇組の△△です。□□先生に、◇◇の用事で来ました。」など
- ・目上への言葉遣いが不適切な場合は、言い直しをさせる。

ウ 返事ができる

- ・名前を呼ばれたら、「はい」としっかりと返事ができるようにさせる。できない場合は、やり直しをさせる。

2 そうじは「だいじ」

ア 清掃活動を行う

- ・『だいじ』を合い言葉に、児童・生徒の自主的活動として取り組ませる。
- ・※だ…だまって い…一生懸命 じ…時間いっぱい
- ・教職員も子どもたちと一緒に清掃を行いながら、仕方を教える。

イ 整理整頓ができる

- ・日頃から、各自の机・ロッカーの中の整理整頓を意識させる。
- ・靴箱の靴は、かかとをそろえて入れさせる。
- ・使った物は、元の場所に返させる。
- ・トイレのスリッパを整頓させる。
- ・ごみが落ちていたら拾う習慣を身につけさせる。

3 時間を守る

- ・「～まで」という教師の指示やチャイムの合図を守る意識をつけさせる。
- ・時計を見て行動できる習慣を身につけさせる。
- ・集合時刻、授業開始時刻を守らせる。
- ・時刻に遅れた場合は、理由を聞いて指導する。
- ・登校遅刻が続いた場合は、保護者を呼んで指導する。

4 持ち物や身なりを整える

ア 持ち物

- ・教科書やノートなどの学習用具を忘れないよう、連絡帳や生活ノートを活用して、前日のうちに揃える習慣を身につけさせる。
- ・教科書は持ち帰らせる。(例外：学校に置いていくことを許可された物)

イ 提出物

- ・期限内に提出するよう指導を徹底する。
- ・提出の遅れや忘れ物が続いた場合は、家庭との連携を図る。

ウ 不要物

- ・学習に不要な物は持って来させない。持ってきた場合は教師が預かり、原則として保護者に返却する。

エ 身だしなみ

- ・中学校での指導を意識し、髪加工や装飾品などがあつた場合は直ちに指導する。

(2) 幼・小・中交流活動

1 あいさつ交流活動

・栄川中学生在東山口、日坂各小学校の昇降口前で児童とあいさつを交わす。
 ・回を重ねる毎に、中学生の希望者が増え、活気も出てきた。
 のあいさつにすぐに直結はしないが、「あいさつ活性化の契機」として、

日常

継続していく。

第1回 平成22年 6月22日(火)：23日(水)：24日(木)
 第2回 平成22年 11月24日(水)：25日(木)：26日(金)

7：30～7：40

2 その他の交流活動

授業や社会見学・音楽発表会・陸上大会等の行事を通した幼小、幼中、小小、
 の交流を積極的に計画・推進する。

小中

(3) 「子育て十ヶ条」の啓発

・子どもたちの健やかな成長のためには、家庭や地域との連携が不可欠であり、
 を求めていく。
 ・月別の重点項目を定め、さらなる浸透を図る。
 ・重点項目は、学校・学年だよりへの掲載、懇談会での話題、ポスターの掲示など
 より周知徹底する。
 ・他の部会との連携を強化する。
 ・青少年健全育成会広報部の「フォトコンテスト」と連携させる。
 ・家庭での取り組み状況を確認するために、チェックカードを活用する。
 ・推進状況把握のために、計画的にアンケートを実施する。
 ・道徳の授業と関連させる。

協力

によ

(4) 「家庭学習の手引き」の活用

・確かな学力を身に付けるために、家庭学習の進め方について、家庭と協力しながら
 導していく。
 ・推進状況把握のために、計画的にアンケートを実施する。
 ・アンケートの内容に「全国学力調査の学習状況調査」の項目を取り入れる。
 ・懇談会の議題に入れ、アンケートの結果を基に話し合う機会をつくる。

ら指

(5) 授業を支える生徒指導

子どもたちの姿で具現化できるように、「12年間を見通した学年毎の重点指標」を定め、
 具体的な手立てを打つ。

学年	幼稚園	小1・2	小3・4	小5・6・中1	中2・3
(朝) あいさつ (授業)	・大きな声で 親や教師と一緒に ・大きな声で 「はい」の返事が できる	・元気よく ・声をそろえて	・先に ・いい姿勢で	・気持ちよく ・気持ちを吞みこ で	・場に応じて ・心をこめて
時間 を守る	・指示を聞く	・チャイムや合図 を守る	・お互いに声をか け合う	・時計を見て動く	・2分前着席 ・自ら考えて
持ち 物	・親と一緒にそろ える	・親と一緒に準備 するの日に準備す る	・予定帳をていね に書く ・チェックしながら 確かめる	・予定帳を工夫し て書く (気をつけるとこ ろは色を変え るなど)	・忘れ物0 ・自分の判断で
整理 整頓 清掃	・置き場所を決める ・使った物は元の場所に戻す ・定期的に掃除をしてきれいに保つ				

保健研修部

1 研修テーマ 「連携」

(1) 幼・小・中の連携、保護者との連携、外部機関との連携を図りながら、子供たちの健康問題に適切に対応していく。

(2) 研修会以外でも、日頃から園・校間で情報交換をして、感染症や不登校の問題に早期に対応する。

2 具体的な取り組み

(1) 幼・小・中12ヵ年を見通した性に関する指導の実施

- ・ 系統的・計画的な年間指導計画の作成
- ・ 指導資料の作成
- ・ 養護教諭や外部講師による専門性を生かした指導

(2) ノーメディア週間（年間2回実施）

① 目的

ノーメディア週間を設定することにより、次の3点について、家庭内での意識を高める。

- ア. 家族のふれあいの時間を作る
- イ. 家庭学習の習慣を定着させる
- ウ. 正しい食習慣について見直す

② 実施時期：「栄川中学校区子育て十ヶ条」の重点目標とリンクさせる。

- ・ 第1回目：6／7（月）～6／20（日） 提出日6／21（月）
- ・ 第2回目：2／7（月）～2／20（日） 提出日2／21（月）